

みずほマーケット・トピック(2019年7月26日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

筆者出張のため、誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に上昇する展開。週初 22 日、107 円台後半でオープンしたドル/円は、日経平均株価の下落に伴い一時週安値となる 107.70 円まで下落。その後はドル買いが強まり、ドル/円は 108 円台前半まで上昇したが、トランプ米大統領の利下げへ圧力を掛けるような発言や米金利が低下する中で、107 円台後半まで押し戻された。23 日はドル買い優勢地合いの中、IMF の世界経済見通しにおいて米国の成長率見通しが上方修正されたことを好感すると、ドル/円は 108 円台前半まで強含みに。翌 24 日は米 6 月新築住宅販売件数の市場予想を下回る結果にドル売りが強まると、ドル/円は 107 円台後半まで下落するも、その後は米金利が下げ渋る展開に 108 円台前半まで値を戻した。25 日には、ECB 政策理事会は市場予想通りの据え置きとなるも、期待ほどハト派な内容でなかったことからユーロ/円が上昇する動きにドル/円も連れ高となり、米金利上昇も相俟って一時週高値となる 108.75 円まで上昇した。本日のドル/円は、108 円台後半で底堅い推移が継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初 22 日に 1.12 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、トランプ大統領の発言を受けドル売りが強まる中、一時週高値となる 1.1225 をつけたが、週内に ECB 理事会を控え 1.12 台前半で上値重く推移。23 日にかけても、ユーロ/ドルは 1.11 台後半で上値重い推移が継続し、ドルが買い戻される展開に 1.11 台半ばまで下落した。翌 24 日、ユーロ圏 7 月マクミット製造業 PMI の弱い結果を受けてユーロ/ドルは、1.11 台前半まで値を下げるも、米 6 月新築住宅販売件数の悪化を受けたドル売りに 1.11 台後半まで回復した。25 日は、ECB 理事会の声明文で政策金利を現行水準もしくはそれを下回る水準にすると明記されたことからユーロ/ドルは一時年初来安値となる 1.1101 をつけたが、ドラギ ECB 総裁がリセッションリスクは依然低いと述べたことなどから 1.11 台後半まで買い戻された。本日のユーロ/ドルは 1.11 台前半で動意に乏しい値動きとなっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		7/19(Fri)	7/22(Mon)	7/23(Tue)	7/24(Wed)	7/25(Thu)
ドル/円	東京9:00	107.41	107.83	107.91	108.23	108.20
	High	107.97	108.07	108.29	108.27	108.75
	Low	107.22	107.70	107.83	107.93	108.04
	NY 17:00	107.75	107.87	108.23	108.18	108.64
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1261	1.1218	1.1204	1.1151	1.1142
	High	1.1282	1.1225	1.1210	1.1156	1.1188
	Low	1.1204	1.1207	1.1146	1.1127	1.1101
	NY 17:00	1.1220	1.1209	1.1151	1.1140	1.1147
ユーロ/円	東京9:00	120.96	120.96	120.88	120.68	120.53
	High	121.28	121.15	121.07	120.70	121.38
	Low	120.82	120.88	120.49	120.21	120.06
	NY 17:00	120.89	120.91	120.69	120.52	121.09
日経平均株価		21,466.99	21,416.79	21,620.88	21,709.57	21,756.55
TOPIX		1,563.96	1,556.37	1,568.82	1,575.09	1,577.85
NYダウ工業株30種平均		27,154.20	27,171.90	27,349.19	27,269.97	27,140.98
NASDAQ		8,146.49	8,204.14	8,251.40	8,321.50	8,238.54
日本10年債		-0.14%	-0.14%	-0.15%	-0.15%	-0.15%
米国10年債		2.06%	2.05%	2.08%	2.04%	2.08%
原油価格(WTI)		55.76	56.22	56.77	55.88	56.02
金(NY)		1,426.70	1,426.90	1,421.70	1,423.60	1,414.70

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週、米国では 30～31 日に FOMC が開催される。パウエル FRB 議長は 10 日に下院での議会証言で「より緩和的な金融政策の必要性が高まっている」と述べ、今会合での利下げに向けた地均しを進めている。市場では今会合での利下げを 100%織り込んでおり、利下げの幅も 50bp ではなく 25bp を見込む向きが多い。18 日にウィリアムズ NY 連銀総裁が講演で、政策金利の水準がゼロに近い環境下では「景気悪化の最初のサインが出た時点で、速やかに利下げすべきだ」と発言したことで、市場では 50bp 利下げへのシグナルと受け止められたものの、これは過去 20 年間の研究についての一般論であり、NY 連銀の報道官も同日にウィリアムズ総裁の講演は学術的なもので FOMC とは無関係とアナウンスした。講演後の説明は異例であり、FRB 当局者は 50bp 利下げを選択肢に残していないことを示唆していると考えられよう。注目点としては、声明文で追加利下げの可能性を示唆するのか、もしくは、しばらくは様子見するのかを見極めることになりそうだ。経済指標では、8 月 1 日(木)の 7 月 ISM 製造業景気指数と 2 日(金)の 7 月雇用統計に注目が集まる。
- ・本邦では、29～30 日に日銀金融政策決定会合が開催される。金融政策は国内経済情勢に応じて運営されるものであり、FRB や ECB などの政策に反応して決めるものではないが、他国が金融緩和に傾斜し金融市場に影響を及ぼすならば、日銀としても対応が必要となる可能性はある。もっとも、日銀に残された緩和カードは少ないため、そう簡単には切れない。昨日の ECB 政策理事会では、声明文に政策金利を 2020 年半ばまで、現行水準もしくはそれを下回る水準にすると今後の利下げの可能性を明示するとともに、具体的な追加緩和の選択肢や副作用の軽減策について執行部に検討するよう指示したことが明らかとなった。ただし、ドラギ ECB 総裁が会見でリセッションリスクは依然低いと述べるなど、ハト派色が全面に出ていたわけでもない。FRB も上述した通り今会合では 25bp の利下げにとどめる可能性が高く、足許の市場の反応は落ち着いていることから、日銀はフォワードガイダンスを現在の「少なくとも 2020 年の春頃」から「2020 年末頃」まで延長するなど小幅な政策変更にとどめるとみられる。

	本 邦	海 外
7 月 26 日(金)	-----	・ユーロ圏 6 月 CPI(速報) ・米 4～6 月期 GDP(速報)
29 日(月)	・日銀金融政策決定会合(～30 日)	-----
30 日(火)	・6 月労働力調査 ・6 月鉱工業生産(速報)	・米 6 月個人所得・支出 ・米 7 月消費者信頼感指数 ・米 5 月 S&P コアロジックケースシラー住宅価格 ・米 FOMC(～31 日)
31 日(水)	・6 月住宅着工	・米 7 月 ADP 雇用統計 ・米 4～6 月期雇用コスト ・米 7 月シカゴ購買部協会景気指数
8 月 1 日(木)	・7 月自動車販売台数	・米 7 月 ISM 製造業景気指数 ・米 6 月建設支出
2 日(金)	・7 月マネタリーベース	・米 7 月雇用統計 ・米 6 月耐久財受注(確報) ・米 6 月貿易収支

【当面の主要行事日程(2019 年 8 月～)】

G7 サミット(8 月 24～26 日、仏ビアリッツ)
 ECB 政策理事会(9 月 12 日、10 月 24 日、12 月 12 日)
 米 FOMC(9 月 17～18 日、10 月 29～30 日、12 月 10～11 日)
 日銀金融政策決定会合(9 月 18～19 日、10 月 30～31 日、12 月 18～19 日)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年7月25日	リブラと金融政策～新興国と信用創造に対する影響～
2019年7月24日	「利下げに囲まれる日銀」と「通貨政策化が進む世界」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年6月分)
2019年7月22日	ECB政策理事会プレビュー～「目標見直し」は大事業～
2019年7月19日	週末版(実質実効為替相場の現状と展望～「ドルは過大評価」とのIMF評価を受けて～)
2019年7月18日	本邦家計部門の金融リテラシーは低いのか？
2019年7月17日	欧米貿易摩擦こそ正当な貿易摩擦という考え方
2019年7月16日	株価を見なくなったドル/円相場と追い込まれる日銀
2019年7月12日	週末版
2019年7月5日	週末版
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～サブプライズがあるとすれば……)
2019年6月13日	厳しい緩和競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか？
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ？～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも？～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカリストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキングな政策運営」
2019年6月4日	ECB政策理事会プレビュー～TLTRO3詳細発表へ～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	ブレグジットQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしか買えない」状況
2019年5月20日	「ドル=7.00」の攻防再び
2019年5月17日	週末版(円相場の需給環境について～建値通貨別でユーロ建て証券投資が過去最大に～)
2019年5月15日	景気動向指数の「悪化」判断と増税の先行きについて
2019年5月14日	関税引き上げと通貨安～元安対抗にも限界あり～
2019年5月13日	米中協議は実質決裂へ～舞台は大阪G20へ？～
2019年5月10日	週末版(「中央銀行の独立性」とトランプの口先介入～「失言」と割り切って良いのか？～)
2019年5月9日	「相応の理由」なき投機のドル買いはいっつまで続くか
2019年5月7日	追加関税騒動について～半年間の努力はどこへ～
2019年4月26日	週末版
2019年4月24日	薄氷のドル高相場～賭けるべき「次の一手」は～
2019年4月23日	10連休を契機に考える休日増加の功罪
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年3月分)
2019年4月22日	円安リスクの点検～年後半は「米国 vs. 欧中」～
2019年4月19日	週末版(ユーロ圏PMIを受けて～「底打ち」しても正常化は別の話～)
2019年4月18日	ドル高を容認できない中国の経常収支
2019年4月17日	相次ぐECBの「次の一手」に関するヒント
2019年4月16日	「改善の極み」を指摘したIMF～循環的なピーク～
2019年4月15日	ECB政策理事会～階層化とTLTRO3の取り扱い～
2019年4月12日	週末版(やはり直面した「欧州らしい結末」～臨時EU首脳会議を受けて～)
2019年4月10日	IMF世界経済見通し～「副題」で見る世界経済の変遷～
2019年4月9日	円相場の基礎的需給環境～「均衡」がもたらすレンジ～
2019年4月8日	ブレグジット情勢を巡るQ&A～臨時首脳会議を前に～
2019年4月5日	週末版(ドイツがけん引するユーロ圏の減速～大崩れしたドイツ製造業受注～)
2019年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(18年12月末)
2019年4月3日	ECBはマイナス金利を階層化するのか？
2019年4月2日	円高を阻む経常収支構造の変化
2019年4月1日	「恵まれた為替環境」を再確認した内閣府調査
2019年3月29日	週末版
2019年3月26日	円安リスクの点検～敢えて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)
2019年3月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年2月分)
2019年3月18日	「ユーロ圏の日本化」の正しい読み方
2019年3月15日	週末版(ブレグジット交渉、当面の読み方～人質戦略は奏功するのか？～)
2019年3月14日	「地方の南欧化」を想起させる業種別一律最低賃金
2019年3月13日	ブレグジット、「2度目の否決」と「新たな期限」
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分)
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年12月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げできずに退任へ～)
2019年3月5日	米金利上昇&ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～
2019年2月22日	週末版
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか？～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない仏伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常态にあるのか？
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流